

令和4年度 山梨県立韮崎学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	「人間を育てる」 ○自ら学ぶ態度の育成 ○体力と気力の充実 ○全人的な人格の形成
-----------	--

山梨県立韮崎学校校長 今村 勇二

本年度の重点目標	熱い志を持ち、粘り強くチャレンジしようとする生徒の育成に努める。
	主体的に自分の良さを伸ばし、社会発展に寄与しようとする生徒の育成に努める。
	文武両道を貫き、切磋琢磨する中で、たくましく、しなやかな心をもった生徒の育成に努める。

達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	B	概ね達成できた。(6割以上)
	C	不十分である。(4割以上)
	D	達成できなかった。(4割以下)

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自 己 評 価				年度末評価(1月16日現在)		
番号	評価項目	本年度の重点目標		自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
		具体的方策	方策の評価指標			
1	熱い志を持ち、粘り強くチャレンジしようとする生徒の育成	「主体的・対話的で深い学び」を念頭に置いた授業改善と、少人数教育・習熟度別教育を生かした学びを実践する。	授業アンケート	・「主体的・対話的で深い学び」を意識はしているものの、積極的に授業改善を行っている職員の比率は十分ではない。 ・ICT機器の利用する場面が増え、校内の研修も計画的に実施できた。 ・課外や小論文指導など進路希望の実現に向けた取り組みが効果的に行われている。	B	・ICT機器の活用研修を今後も継続することにより、授業改善につなげていく。 ・進路行事について、効果を維持しつつ教職員の負担軽減策を検討する。
		進路希望に応じた課外・模擬試験・学習会・小論文指導等を実施する。	進路行事への参加者数			
		ICT教育を充実させ、情報活用能力を運用する機会を増やす。	研修の内容や回数			
2	主体的に自分の良さを伸ばし、社会発展に寄与しようとする生徒の育成	教科横断的な課題研究を推進する。	授業アンケート	・教科横断的な課題研究や学習活動がある程度実践できている。 ・社会に目を向ける意識を育成する活動は教員、生徒ともに肯定的評価が高い。 ・地域や県内大学との連携活動はコロナの影響もあって、最小限にとどまった。	B	・教科横断的な学習活動について、さらなる質的向上を目指す。 ・社会に目を向ける意識を育成するとともに、具体的な実践活動を増やせるとよい。 ・部活動やSSHの活動において、地域や県内大学との連携活動を今年度以上に増やす。
		あらゆる教育活動を通じて、社会に目を向ける意識を育成する。	事後アンケート			
		地域の小中学生や県内大学、海外姉妹校等との連携活動を実施する。	公開講座等への参加者数			
3	文武両道を貫き、たくましく、しなやかな心をもった生徒の育成	部活動を計画的に行い、生徒の心身の健全な育成と学校の活性化に努める。	各種大会の結果、部活動への参加率	・体育系、文化系ともに多くの部が優秀な成果を収めており、部活動が生徒の育成に大きな効果を上げている。 ・行事の後のアンケートから、生徒が真摯に向き合い、成長していることが見て取れる。学年通信などで共有され、他者の考えに触れる効果も大きい。	B	・より実践的な防災対応能力を高めたり、危険回避能力、防犯意識の向上につながる取り組みを実施できるよう検討する。
		交通安全意識や防災対応能力を高める取り組みを行う。	交通事故・違反統計			
		他者との関わりの中で人間性を磨く活動を多く取り入れる。	事後アンケート			
4	快適な学校環境の整備	いじめや体罰のない学校全体の雰囲気づくりを進める。	いじめ調査、体罰調査	・いじめや体罰については報告がほとんどなく概ね良好な状況であるが、教職員については時間外勤務時間がかかり多く、課題が多い。	B	・行事や業務について教職員の意識を変えるよう働きかけを行いながら、統廃合や削減などを行い、バランスのとれた勤務環境をめざす。
		教職員の業務内容の削減やスリム化を図る。	教職員アンケート			
5						

学校関係者評価	
実施日 (令和5年2月16日)	
評価	意見・要望等
3	・授業参観を通して、教職員の熱心に取り組む様子がわかった。また、ICT機器の利用にも積極的に取り組んでいる姿が見られた。卒業すれば、生徒はPCが使えるのが当たり前の状況に置かれる。先生方が生徒の手本となってほしい。 ・ICT利用の授業が多くなる中で、先生方の得手、不得手により有効利用されていない場面があるように思う。研修等により先生方の学びの機会を増やすことを期待。 ・先生方はしっかりやっていると思うが、生徒や保護者に届いていない部分がある。
3	・成人年齢の引き下げに伴い、中学・高校時代の社会性の育成が重要になっている。このことをしっかり認識しながら指導をお願いしたい。 ・学校を出て地域や他校と交流することは生徒にとってプラスである。来年度は活動が盛んに行けるようになるとよい。 ・社会に目を向ける意識を高めてほしい。
4	・防災、防犯教育に課題を感じているようだが、全体的にはよくできていると思う。欲を言えば、生徒の居住する地域でも挨拶ができるとうい。 ・韮高は文武両道を掲げ、勉強と部活動に力を入れている。部によって活動場所や学校バスの利用などに格差がないようにしてほしい。
3	・コロナ禍の閉塞感のある状況だが、風通しの良い教職員の関係を作り、活気のある生徒の活動を支援してほしい。 ・生徒の姿が見えにくい社会状況であり、特にネット上での生徒の振る舞いは特にわからないので、先生方の指導に期待するところが大きい。 ・これからも生徒一人一人にきめ細かな指導をお願いしたい。 ・教員の多忙化改善について、子供たちにとって何が今必要なのか取捨選択する中でスリム化を目指し、生徒と向き合う時間も作れるようにしていただきたい。 ・先生たちの生徒一人一人に対する細かな指導や気配りが成果に表れていると思う。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。